


国際化市民フォーラム in TOKYO

参加申込書 (FAX 受付用)

- ▶ 参加申込方法 東京都国際交流委員会へいずれかの方法でお申込みください。
 - 下記ホームページの申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。

東京都国際交流委員会 

- FAX 受付：03-5294-6540
- 電話受付：03-5294-6542（平日 9：00～17：15）

- ▶ 定員になり次第、締切とさせていただきます。
- ▶ 定員を超え、お申込みをお受けできない場合はご連絡します。
- ▶ この情報は、フォーラム以外の目的には一切使用いたしません。

締切
2月3日（月）

荒天の場合中止となることがありますので、連絡が取れる電話番号、または E-mail の記入をお願いします。

ふりがな 氏名	所 属
------------	-----

E-mail または TEL

*希望分科会（参加を希望する分科会に✓をつけてください。）

午前分科会

- A 出入国管理法改正の影響と多文化共生社会のこれから ～日本語・人・地域社会～
10：00～12：30 学習室1 (2F)
- B 在住外国人の医療・保健について ～通訳・相談・診療の現場から～
10：00～12：30 学習室2 (3F)

午後分科会

- C 災害時の「やさしい日本語」、どう“まち”に根付かせるか？
13：30～16：00 学習室1 (2F)
- D 国際協力の現場から考える多文化共生
13：30～16：00 学習室2 (3F)

事務局
東京都国際交流委員会
〒101-0023 千代田区神田松永町 17-15 大野ビル 3F
TEL: 03-5294-6542
FAX: 03-5294-6540
URL: <http://www.tokyo-icc.jp>

国際化市民フォーラム

in TOKYO

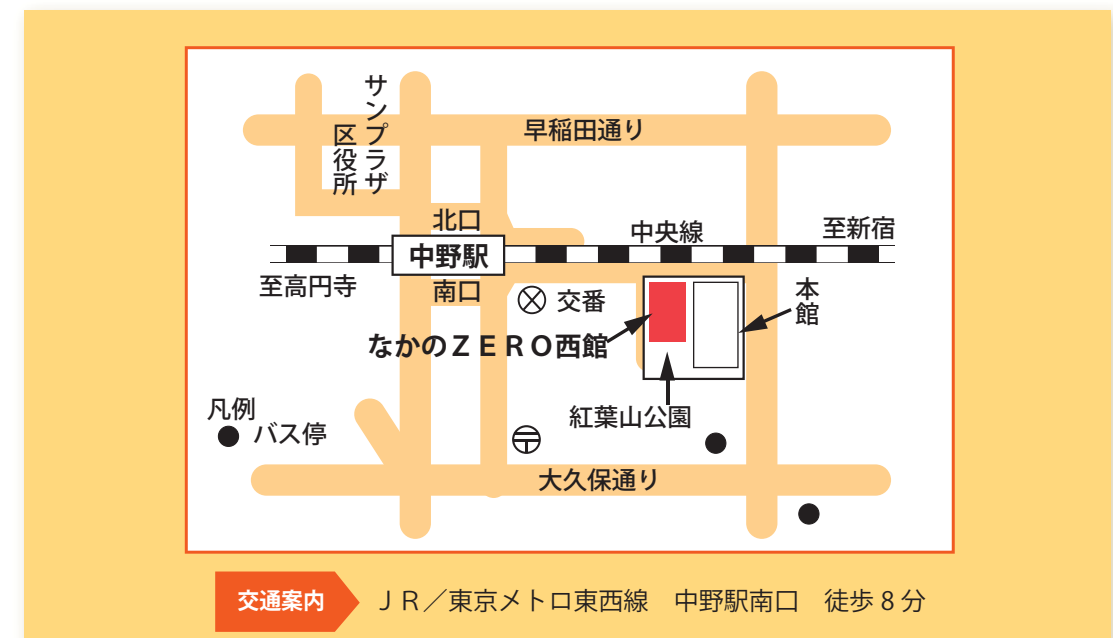


多文化共生の新時代

2020年10月1日現在、都内の外国人登録者数は約57万人で全体の約4.1%を占めています。経済のグローバル化、少子高齢化が進展する中で、在住外国人の増加と定住化の傾向は今後ますます進んでいくと考えられます。

このような状況において、在住外国人を取り巻く課題や問題点、国際協力の在り方などについて、国際理解を促進し問題解決への認識を深める機会とします。

- 開催日時 2020年 **2月8日（土）**
午前 A・B分科会 10：00～12：30
午後 C・D分科会 13：30～16：00
- 開催場所 なかのZERO西館2F・3F（中野区中野 2-9-7）
- 定 員 各分科会 50名
- 申込方法 裏面をご覧ください。
- 締 切 2020年2月3日（月） ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
- 参加費 無料



午前 10:00 ~ 12:30

学習室 1 (2F)

出入国管理法改正の影響と多文化共生社会のこれから ~日本語・人・地域社会~

日本の生産年齢人口の減少に伴う深刻な人手不足に歯止めをかけ、人材を確保するために改正出入国管理法が 2019 年 4 月に施行され、約 1 年が経過しました。今後、法律に基づき、生活者としての外国人を支援する「外国人との多文化共生社会の実現に向けた取組」がなされていきます。

基調講演では、人口減少で迫られる諸問題と今後を主題とし、法改正の背景等について理解を深めます。

続いて、生活者としての外国人に対する支援のうち、外国人を対象とした相談窓口、日本語の学習支援と居場所、企業での外国人労働者の受け皿づくり等、法改正の影響と多文化共生社会のこれからについて、三つの現場から報告します。

さらに、登壇者への質疑応答を通じて、今後の方向についても理解を共有し、議論を深めていきます。

- 基調講演** 「人口激減時代と外国人受入れ新政策—日本は移民社会に向かうのか？」
毛受 敏浩氏 公益財団法人日本国際交流センター 執行理事
- 報告 ①** 「外国人相談から」
新居みどり氏 NPO 法人国際活動市民中心 (CINGA) コーディネーター
- 報告 ②** 「東京における日本語学習支援」
梶村 勝利氏 東京日本語ボランティア・ネットワーク 代表
- 報告 ③** 「企業側の外国人労働者の受け皿づくりは」
中山真理子氏 NPO 法人多文化子ども自立支援センター 代表理事

学習室 2 (3F)

在住外国人の医療・保健について ~通訳・相談・診療の現場から~

近年、都内の外国人人口は急増しており、出入国管理法の改正などに伴って今後さらに増えていくことが予想されます。そのような中で、在住外国人の医療・保健に関する相談や問合せの件数も増加傾向にあります。

適切な治療のためには、患者と医療機関等による円滑なコミュニケーションが不可欠です。言葉が通じないと、症状や診断が正確に伝わりません。また、患者が持つ多様な文化的背景への配慮も必要です。

本分科会では「通訳」、「相談」、「診療」の視点から、在住外国人の医療・保健をめぐる現状を確認し、それぞれの現場における課題を提示します。後半のパネルディスカッションでは、全体的な課題を整理するとともに、支援に携わる様々な主体の役割や連携の可能性について、考察を深めていきます。

- ファシリテーター** 高田友佳子氏 Our Foreign Neighbors We Care 代表
- 登壇者 ①** 西村 明夫氏 RASC コミュニティ通訳支援センター 代表
- 登壇者 ②** 杉田 理恵氏 東村山市市民相談・交流課多文化共生相談員
- 登壇者 ③** 阿部 裕氏 四谷ゆいクリニック 院長
- 登壇者 ④** 村田 陽次氏 東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課

お知らせ

2019 年度 国連普及啓発シンポジウム

テーマ：SDGs 私にできること ~ソーシャルビジネスへの挑戦~

私たちの快適な生活は、多くの途上国の人々を踏み台に成り立っていると言っても過言ではありません。そしてその解決に向けた SDGs の発現には、私たち一人一人の強い意識変容と具体的な取り組みが求められています。そこで基調講演では SDGs (持続可能な開発目標) の発現に向けた国連の取り組みを、事例報告では最近、注目度が高まっている企業ビジネスの手法を活かしながらさまざまな課題解決に取り組むソーシャルビジネスの事例をご紹介します。

午後 13:30 ~ 16:00

学習室 1 (2F)

災害時の「やさしい日本語」、どう“まち”に根付かせるか？

災害発生時に自治体などから発信される日本語の情報は、日本人でも普段は使わない特殊な単語が頻出し、必要な情報が十分に伝わらない場合も多いです。災害時に外国人が情報弱者にならないよう、外国人が理解できる「やさしい日本語」の研究や実践が自治体や NPO 法人などの分野で広がっていますが、まだまだ“まち”に根付いているとはいえない状況です。

本分科会では、まず基調講演で災害時の「やさしい日本語」の現状にスポットを当て、全体の課題や問題点を概観します。そのあと 3 人のパネリストのうち、日本人の登壇者から、日ごろの取り組みについて報告後、2 人の外国人パネリストに日常や災害時に経験した日本語などについて感想を述べてもらい、全パネリストで今後どのようにしたら「やさしい日本語」を根付かせることができるか議論します。併せて、会場との意見交換を行います。

- 基調講演・ファシリテーター** 庵 功雄氏 一橋大学 教授
- パネリスト ①** 田島 亮子氏 公益財団法人栃木県国際交流協会
- パネリスト ②** アレクサンドラ シュワルツ氏 中央大学 ドイツ語講師
- パネリスト ③** 岡本 麗氏 豊実株式会社 代表取締役



学習室 2 (3F)

国際協力の現場から考える多文化共生

異文化の中での生活には大きな心理的ストレスが伴います。日本においても外国人の長期滞在・定住化が加速し、各自治体や国際交流協会が設置する生活相談窓口の重要性は増すばかりです。相談内容が多様化・深刻化すると同時に、相談を受ける側や社会としての困りごとが増えてきています。多様なバックグラウンドを持った人々とのコミュニケーションや心のケア、そしてその人々を支えるサポーターの心のもちようについて、これまで国内外で異なる文化を持った人々の心と向き合ってきた国際協力 NGO の経験を共有いただくと共に、双方が気持ちよく共生するための実用的なコミュニケーション・スキルを紹介します。

- 事例報告 ①** 認定 NPO 法人日本紛争予防センター (JCCP)
- 事例報告 ②** 山本 裕子氏 認定 NPO 法人シェア=国際保健協力市民の会 在日外国人支援事業担当 保健師・看護師
- ワークショップ** 渡辺真里子氏 JICA 東京 研修員カウンセラー 臨床心理士
佐藤 優子氏 JICA 東京 研修員健康管理センター 看護師

※事前申し込みが必要です。 申込締切 1月9日(木)

- 開催日時：2020 年 1 月 11 日(土) 13:00 ~ 16:30
- 場 所：東京ウィメンズ ホール (B1F)
- 入場無料

●申込方法
*インターネット：[国連協会 東京都](#)
専用のお申込みフォームに入力のうえ、送信してください。

詳しくはホームページを是非ご覧ください。

主催：日本国際連合協会東京都本部 共催：東京都、東京都国際交流委員会 後援：公益財団法人日本国際連合協会、独立行政法人国際協力機構 (JICA)